

栄研化学(株)

【コード】	【業種】	【市場】	【決算】	【〒】	【電話】
4549	医薬品	東証1部	3月	110-8408	03-5846-3305
【住所】	東京都台東区台東4-19-9		【設立年月】	1939/02	
【代表者】	寺本 哲也				
【事業内容・特徴】					

感染症に対する細菌検査用試薬(培地)の開発からスタートした臨床検査薬メーカー。遺伝子増幅技術「LAMP法」の普及と遺伝子検査市場に注力。経営戦略取材速報の著述はアナリストの取材・論点整理・所感などのメモ書きとなります。同速報は、NPO法人日本ライフプラン協会の会員サイトBBS「銘柄調査最前線」でも時系列で読むことができます。詳しくはNPO法人日本ライフプラン協会(JLPI) <http://www.jlpi.jp/> をご覧ください。

栄研化学
寺本社長

特長と強み

ヘルスケアの検査部門に特化している。
臨床検査と産業用検査 2つをターゲットとしている
それぞれの分野に対していろいろな商品に展開。

安定性が高い。競合関係にある企業

シスメックス、富士レピオ(みらかホールディングス)、和光純薬、積水メディカル(旧第一化学薬品)現状、当社は国内シェア5番目

遺伝子検査に注力。遺伝子増幅法(LAMP法)将来の大きな柱にしたい。

開発して10年ちよっとになる
イニシャルフィー、ライセンスフィー
検査会社が顧客となる、BML、ファルコバイオ、エスアールエルなど【国内外】

臨床検査分野

病院で単純に検査するだけではなくスクリーニング検査を推進
大腸がんの免疫法の検査 検査装置 日立ハイテック、アロカ、日本電子など機械メーカーとアライアンス 世界展開実施

外部環境

ワールドワイドで3兆円ぐらい
検査試薬 検査装置 4500億円
国内はあまり伸びていない、インフルエンザなどが流行ると拡大する
公定価格 検査料 最近は少し下げ止まった
薬価と違い下がってもそのまま打撃を受けるわけではない
現在5位だが10年ぐらいシェアの変動はない
海外がンのびしろ、特に新興国、生活レベル水準が上がってきているところ。
国内はシュリンク気味である。
海外比率10%台にあと2年計画で到達したい。ここ3年前ぐらいで海外に力。
大腸がんのスクリーニング検査が主力商品。
海外国別 欧米6割ぐらい ユーロ圏から見ると円高で値下げ競争となりマイナス材料である。

社会貢献活動としてモダンメディア発行(学術誌)

成長戦略

300億円目標 海外を伸ばす 代理店を増加させている
売上の8%→R&D、650名のうち研究員は100名いる
前期、先行投資 秋葉原本社 30億円土地購入 300坪、マイナスキャッシュフローは一時的、段階的に本社集約する 利益の影響を極力避ける
考え。

黒住会長がオーナー 創業家2.8%程度、オーナー色薄い、寺本社長はプロパー社長。

大塚製薬会社第2位株主、親しい提携関係にある、大塚製薬の一部門が検査薬部門を持っておりそことお付き合いしている。現状TOBは考えにくいだがTOBの際は、総じてメリットのある方で判断する。

試験装置メーカーのM&Aは考えている。

配当性向30%主義、25円は配当したい、IR活動は決算説明会年2回、ロードショー無し、海外説明会無し、個人投資家説明会無し。

所感

安定的な市場で競争関係はそんなに激しくない印象だ。現場で、細かい競争は当然あるが、グロスで見た場合、ここ10数年国内シェア順位が劇的に変わったことはなく、最近では、公定価格も安定してきているだけに、大きな変動は起こりにくい。合併などもスケールメリットはあまりないように思え、起こりにくいといえる。
問題は成長戦略だが、海外開拓は、円高の要素を除けば比較的順調に進んでいるといえ、成長率は低いかもしれないが着実に伸びていく感じを受けた。

以上